

15. かりん

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオン水和剤	散布	収穫3日前まで	3回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。
農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

病 害 虫 名	防 除 時 期	防 除 方 法	注 意 事 項
シンクイムシ類	4 月 ~ 9 月	1. アディオン水和剤 2,000 倍液を散布する。	1. アディオンは蚕毒、 魚毒に特に注意する (特別指導事項参照)。

16. ブルーベリー

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
BM2	アグロケア水和剤	散布	収穫前日まで	-	
M4	オーソサイド水和剤80	散布	収穫21日前まで	2回以内	
11	ストロビードライフロアブル	散布	収穫14日前まで	2回以内	
1	ベンレート水和剤	散布	収穫7日前まで	1回	

・殺虫剤 (参考農薬)

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
3	アディオンフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
3	スカウトフロアブル	散布	収穫前日まで	2回以内	
4	モスピラン顆粒水溶剤	散布	収穫前日まで	1回	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決めているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

品種や気象条件により収穫時期が異なるので、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意する。
 農薬の使用回数は、前年の収穫後から本年の収穫までの期間の使用回数であるので注意する。

病虫害名	防除時期	防除方法	注意事項
灰色かび病	開花期 ～落花期	1. オースサイド水和剤 80 の 500 倍液またはアグロケア水和剤 2,000 倍液を散布する。	1. 開花後の花器に残る花卉に腐生的に寄生して、幼果に被害を及ぼす。花卉の落ちにくい品種で発生が多い傾向があるので注意する。 2. アグロケアはバチルス菌を有効成分とする微生物農薬である。予防効果が主体なので、発病前からの使用を心がける。
斑点病	5月下旬 ～7月	1. オースサイド水和剤 80 の 500 倍液、ストロビードライフロアブル、ベンレート水和剤の 3,000 倍液のいずれかを散布する。 2. 発生初期からの防除に心がけ、地際部から発生する新梢にも散布する。	1. 過繁茂など、風通しの悪い園で発生が多くなるため、枝梢を整理して密植を解消する。 2. オースサイドは果粒肥大が進んでからの散布で果実に汚れを生じる場合があるので注意する。
バルデンシア 葉枯病	発生初期 (5月中旬～ 6月上旬頃)	1. ベンレート水和剤 3,000 倍液を散布する。 2. 発生初期までの防除を心がけ、地際部から発生する新梢にも散布する。	1. 過繁茂など、風通しの悪い園で発生が多くなるため、枝梢を整理して密植を解消する。 2. 発生ほ場では生育期間を通して罹病吸枝の切除や被害落葉の処分など耕種的防除も行う。
ミズキカタ カイガラムシ	休眠期	1. 越冬幼虫を除去する。	
オウトウシヨ ウジョウバエ	収穫期	[参考農薬] 1. アディオンフロアブル 2,000 倍液、スカウトフロアブル 3,000 倍液、モスピラン顆粒水溶剤の 4,000 倍液のいずれかを散布する。 2. 過熟果や被害果が発生源となるので、こまめな収穫と、被害果及び落果の除去に努める。	1. アディオン、スカウトは蚕毒と魚毒に、モスピランは蚕毒に特に注意する（特別指導事項参照）。

【総括注意】

1. オースサイドは魚毒が強いので注意する。